

LA 通信

第 606 回：論文やレポートの書き方について（10）（DM）

みなさま、こんにちは。LA 毎週月曜 12 時～15 時担当、博士課程 2 年の DM です。

今回は、引き続き、資料調査について説明していきます。特に、外大生として資料調査をするとはどういうことかを考えていきたいと思います。

研究を行うためには、適切な環境を整える必要があります。前回の連載分では、資料調査というものを、小熊英二の発想をやや強引に参照しながら、「実験」という比喩になぞらえて説明しました。実験を行うために素材と道具を集めるのが資料調査だというわけです。それらを集めて、自分の研究にとって適切な環境を整える作業が、資料調査なのであります。

私たち人文科学系の卒論やレポート課題で、研究に必要な素材と道具を集めの作業は、私たちが各自で行う必要があります。もちろん、何年もかけて一つの研究を行うのなら、ある程度は手の行き届いた研究環境を用意するのも必要な作業となってくることでしょう。ですが、残念ながら、卒論、とりわけレポート課題には、そんなに長い時間をかけることができません。巨額の資金で大量の資料を買い漁ることもできません。つまり、私たちは、限られた時間と資本を使って、どんな研究であれば可能なのかを考える必要があるのであります。

そこで、私からみなさまにお勧めしたいのが、私たちにとって最も身近な大学図書館、すなわち外大図書館を、資料調査の拠点として活用することです。卒論だろうと、レポート課題だろうと、研究を行うのは他ならぬ私たちという外大生であるわけです。その条件

を無視することはできません。私たちが外大生である以上、私たちが利用資格を持っている大学図書館は、当然、外大図書館になります。だから、外大図書館が私たちの拠点となるのです。当たり前のことはあるのですが、だからこそ、この条件に即する必要があるのです。

インターネットと比較した場合でも、外大図書館を資料調査の拠点にせよという勧めは、やはり有効であると思われます。たしかに、単純な情報収集の容易さという点では、インターネットは優れて便利ですし、各大学のリポジトリにアクセスすれば、論文の PDF が無料で大量に公開されています。とはいえ、これから私たちが作成したいのは、卒論やレポート課題であるわけです。これは一般的な傾向としてお伝えしますが、学術的な価値が広く認められた研究というものは、加筆修正が加えられた上で、書籍化されて、大学図書館に所蔵されるものなのです。結局のところ、そういうしっかりと先行研究を見つけて読み込むことが、研究における一番の近道なのです。だから、外大の大学図書館は、資料調査の拠点としては、インターネットよりも適していると言えるのです。外大図書館所蔵の先行研究を軸にして、インターネットでそれを補足するというのが、資料の読み込みとしては、オーソドックスだと言えましょう。

では、今回の LA 通信はここまでにして、外大図書館を具体的な拠点として据えた場合の具体的な資料調査の手順については、次回の LA 通信でお伝えしていきたいと思います。みなさま、どうぞよろしくお願ひいたし

LA 通信

第 606 回：論文やレポートの書き方について（10）（DM）

ます。

参考文献

小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』
(講談社現代新書 ; 2660) 講談社、2022 年